

## 2020 年度

## 授業概要

科目名	理学療法技術論Ⅴ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	理学療法士科3年	後期	必修・選択	必修

## 〔授業の目的・ねらい〕

スポーツ傷害の理学療法は、幅広い理学療法の中のごく一部にしか過ぎない。従って、他の分野における理学療法の考え方をよく理解した上で、それらを応用出来るように知識や技術を高めるよう努力する必要がある。特に運動学や整形外科学などの知識を再確認し、スポーツ傷害に対する理学療法に関してより一層の知識を深めていくことを目的とする。

## 〔授業全体の内容の概要〕

運動学や整形外科学などの知識を確認しながら、代表的なスポーツ傷害を教授する。特にスポーツ傷害発生要因とその機序を教授する。そして、標準的なスポーツ傷害に対する評価とその応急処置からアスレチックリハビリテーションを示しながら教授する。

## 〔講師の実務経験〕

リハビリテーション病院にて主に脳血管障害に対して12年間理学療法士として従事する。

## 〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

1. 代表的なスポーツ傷害を理解できる。
2. スポーツ傷害の発生要因について理解できる。
3. 代表的なスポーツ傷害のアスレチックリハビリテーションが理解できる。

回数	講義内容
1	スポーツ傷害とは<概論>
2	スポーツ傷害の種類、評価方法
3	前十字靭帯損傷のアスレチックリハビリテーション
4	前十字靭帯損傷のアスレチックリハビリテーション
5	スポーツによる膝関節傷害について
6	スポーツによる膝関節傷害について
7	足関節靭帯損傷のアスレチックリハビリテーション
8	足関節靭帯損傷のアスレチックリハビリテーション
9	投球障害のアスレチックリハビリテーション
10	投球障害のアスレチックリハビリテーション
11	スポーツによる腰部疾患のアスレチックリハビリテーション
12	難病におけるリハビリテーションの内容
13	難病におけるリハビリテーションの内容
14	難病におけるリハビリテーションの実践
15	難病におけるリハビリテーションの実践
	定期筆記試験

## 【 準備学習・時間外学習 】

## 【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社

## 【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

成績は授業・実習における積極的な態度・および定期試験によって総合的に判定する。